

14:14 また私は見た。すると見よ。白い雲が起こり、その雲の上に人の子のような方が座っておられた。その頭には金の冠、手には鋭い鎌があった。

14:15 すると、別の御使いが神殿から出て来て、雲の上に座っておられる方に大声で叫んだ。「あなたの鎌を送って、刈り取ってください。刈り入れの時が来ましたから。地の穀物は実っています。」

14:16 雲の上に座っておられる方が地上に鎌を投げると、地は刈り取られた。

14:17 それから、もう一人の御使いが天の神殿から出て来たが、彼もまた、鋭い鎌を持っていた。

14:18 すると、火をつかさどる権威を持つ別の御使いが祭壇から出て来て、鋭い鎌を持つ御使いに大声で呼びかけた。「あなたの鋭い鎌を送って、地のぶどうの房を刈り集めよ。ぶどうはすでに熟している。」

14:19 御使いは地上に鎌を投げて、地のぶどうを刈り集め、神の憤りの大きな踏み場に投げ入れた。

14:20 都の外にあるその踏み場でぶどうが踏まれた。すると、血がその踏み場から流れ出て、馬のくつわの高さに届くほどになり、千六百スタディオンに広がった。

終りの日は単に人類が苦しむものではありません。それは大いなるさばきのためです。すなわち神の敵は敵としてさばき、神の側に立つものは神のものとしてさばくのです。神様は敵が誰であるかが明確になるために、この世では勝手なことをさせているのですが、それも終わりが来ます。自由にさせていた者たちにかまを入れるようにして、さばくのです。

そして「神の憤りの大きな踏み場に投げ入れた。」とあるように、滅びへのさばきをなされるのです。終りの日は神に敵対していた者たちにとって悲惨な日となります。それは自分たちが自ら選択した道だから仕方ないのですが、私たちは一人でも救われるようにと、願い行動する思いになるものです。神様も今は忍耐しておられ、一人でも悔い改めに進むようにと願っておられます。終りの時を心に覚えながら、何とか救いを届けられるように、チャレンジしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

